

富田林市文化財調査報告59

平成28年度

富田林市内遺跡群発掘調査報告書

2017. 3

富田林市教育委員会

は じ め に

富田林市は、市の中心を南北に流れる石川による低地とその周辺の緑豊かな丘陵に囲まれた土地として昔から人々の生活の場となり、それらは地上のみならず、地下に埋もれた文化財として現在に伝えられています。

この土の中に残された文化財は発掘調査を行うことによって、遺構や遺物という形で我々に昔の人々のことを教えてくれる貴重な文化財です。様々な開発に伴って発掘調査を行って得た記録類は、後世に守り残していくなければならない大切なものです。

この報告書は、平成28年度に実施した緊急発掘調査についてまとめたものとなります。2つの遺跡で発掘調査を行った結果、また新たな本市の歴史の一端を知ることができました。学術的な方面のみならず、学校・生涯学習教育の場でも広く活用されることを望みます。

最後になりますが、緊急発掘調査および本書の刊行におきましてご理解とご協力頂きました関係者の皆様には感謝申し上げます。

平成29年3月

富田林市教育委員会
教育長 芝本 哲也

例 言

1. 本書は、平成 28 年度国庫補助事業「市内遺跡緊急発掘調査事業」の報告書である。
2. 本事業は、富田林市教育委員会文化財課が、平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日にかけて実施した。
3. 平成 28 年の現地調査および整理作業は、同課職員 河東 潤・角南辰馬・林 正樹、同課非常勤職員 粟田 薫・渡邊晴香が担当し、同課非常勤職員 桑本彰子がこれを補佐した。
4. 本書には整理作業等の都合から、平成 28 年 12 月 31 日までに現地調査が終了したものを持載した。
5. 本書の執筆は角南が行い、編集を渡邊・角南が行った。

凡 例

1. 本書で使用する標高は、東京湾標準潮位（T. P.）で表示している。
2. 現地調査における土色の色調は『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 1970）を使用した。

目 次

第1章 平成28年の調査状況·····	1
第2章 錦織遺跡（NK2015-1）の調査	
第1節 調査の経緯と経過·····	5
第2節 層序と確認した遺構·····	5
第3節 出土遺物·····	8
第4節 まとめ·····	8
第3章 粟ヶ池遺跡（AG2016-1）の調査	
第1節 調査の経緯と経過·····	10
第2節 調査の成果·····	10

報告書抄録

挿 図 目 次

図1 市内遺跡分布図（S=1/40,000）·····	4
図2 調査位置図（S=1/2,000）·····	5
図3 トレンチ配置図（S=1/100）·····	6
図4 トレンチ南壁（上段）および東壁（下段）断面図（S=1/40）·····	7
図5 トレンチ平面図（S=1/20）·····	8
図6 莖石詳細図（S=1/10）·····	9
図7 調査位置図（左側 S=1/4,000）およびトレンチ配置図（右側 S=1/400）···	10
図8 トレンチ平面図および南壁断面図（S=1/20）·····	11

表 目 次

表1 発掘届（通知）受理件数·····	1
表2 発掘調査一覧·····	2
表3 試掘調査一覧·····	3

写 真 目 次

写真1	南半分の葺石（北東から）	9
写真2	北半分の葺石（南東から）	9

図 版 目 次

図版1	錦織遺跡（NK2015-1） 調査区近景（南東から）、調査区近景（南から）
図版2	錦織遺跡（NK2015-1） 葺石（東から）、葺石（北東から）
図版3	錦織遺跡（NK2015-1） 葺石（南から）、葺石（北西から）
図版4	栗ヶ池遺跡（AG2016-1） 調査区近景（北東から）、溝とピット（北から）
図版5	栗ヶ池遺跡（AG2016-1） 南壁土層断面（北東から）、溝の遺物出土状況（北東から）

第1章 平成28年の調査状況

平成28年1月から12月において、文化財保護法第93条・94条に基づく発掘届出・発掘通知の提出状況は、表1のとおりであった。

届出・通知件数は計158件で、前年度に比べると15件増加しているが、そのうち発掘調査に至ったものは16件で、9件減少している。このように多少の増減はあるものの、基本的には昨年と大差は認められない。

これらのうち平成28年に国庫補助事業として調査を実施したのは、錦織遺跡（第2章）、栗ヶ池遺跡（第3章）の計2件である。どちらも個人住宅の建築に伴う本発掘調査である。

また、埋蔵文化財包蔵地外での試掘調査については10件であり、前年度より3件少ないが、1件の申請面積が1,000m²を超える開発に伴う試掘調査が半数以上となっている。そのなかで、新規発見として新たに登録された遺跡が、喜志東遺跡、アミダ遺跡、中野東遺跡の3つである。

喜志東遺跡は喜志町一丁目に位置し、共同住宅の新築工事に先立つ試掘調査によって遺物を確認した。その結果を受け、遺構面保護に配慮した設計変更がなされたため、工事中に立会調査を行う対応となった。

表1 発掘届（通知）受理件数

	発掘届出（93条）						発掘通知（94条）						合計
	事前	立会	慎重	遺憾	進達	小計	事前	立会	慎重	遺憾	進達	小計	
道路	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6	6
宅地造成	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
個人住宅	5	23	11	0	0	39	0	0	0	0	0	0	39
分譲住宅	6	16	4	0	0	26	0	0	0	0	0	0	26
共同住宅	2	0	1	0	0	3	1	0	0	0	0	1	4
兼用住宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
店舗	2	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
その他建物	3	3	2	1	0	9	0	0	0	0	0	0	9
公園造成	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
ガス	0	0	33	0	0	33	0	0	0	0	0	0	33
電気	0	0	20	0	0	20	0	0	0	0	0	0	20
水道	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	1	9	9
下水道	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	3
電話通信	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他開発	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	2	3
小計	19	45	71	1	0	136	1	2	17	0	2	22	158

アミダ遺跡は錦織中一丁目に位置し、宅地造成工事に先立つ試掘調査によって、遺構・遺物を確認した。遺構面の保護措置を取れない工事であったため、発掘調査を実施し、記録保存に努めた。

中野東遺跡は中野町東二丁目に位置し、工場の増築工事に先立つ試掘調査によって遺物を確認した。その結果を受け、遺構面保護に配慮した設計変更がなされたため、慎重施工となった。

表2 発掘調査一覧

番号	調査日	所在地	遺跡名	調査原因	調査面積 (m ²)	調査結果	担当者	調査記号
1	1月5日 ～1月9日	錦織東 一丁目	錦織遺跡	個人住宅	18	遺構・遺物あり (事前調査 はH27.12に実施)	角南	NK2015-1
2	2月2日 ～2月10日	西板持町 七丁目	西板持遺跡	分譲住宅	9.2	遺構・ 遺物なし	渡邊、 林	
3	4月25日	西板持町 七丁目	西板持遺跡	その他建物	3.5	遺構・ 遺物なし	角南	
4	5月18日	錦織南 一丁目	錦織南遺跡	分譲住宅 (宅地造成)	4.8	遺構・ 遺物なし	角南	
5	5月18日 ～6月7日	錦織中 一丁目	アミダ遺跡	宅地造成	243	遺構・遺物あり (試掘調査5 の本調査)	角南	AM2016-1
6	5月26日	若松町 二丁目	畠ヶ田遺跡	店舗	8.6	遺構・ 遺物なし	林	
7	7月8日	西板持町 七丁目	西板持遺跡	分譲住宅	2.5	遺構・ 遺物なし	角南	
8	7月11日	甲田 二丁目	甲田遺跡	その他建物	2.5	遺構・ 遺物なし	角南、 林	
9	7月20日	西板持町 七丁目	西板持遺跡	宅地造成	2.3	遺構・ 遺物なし	角南	
10	7月20日	若松町西 一丁目	中野遺跡	共同住宅	3.1	遺構・ 遺物なし	角南	
11	7月22日	若松町 五丁目	中野遺跡	店舗	3	遺構・ 遺物なし	林	
12	8月30日 ～9月1日	桜井町 二丁目	栗ヶ池遺跡	個人住宅	7.4	遺構・ 遺物あり	角南	AG2016-1
13	8月26日 ～10月11日	中野町 二丁目	中野遺跡	その他建物	160	遺構・ 遺物あり	林	NN2016-1
14	10月31日	若松町 五丁目	中野遺跡	その他建物	1.9	遺構・ 遺物なし	林	
15	11月9日	喜志町 五丁目	喜志西遺跡	個人住宅	2	遺構・ 遺物なし	林	
16	11月14日 ～11月19日	錦織東 一丁目	錦織遺跡	その他建物	40.3	遺構・遺物あり (H29.11に本 調査)	渡邊、 林	NK2016-1

表3 試掘調査一覧

番号	調査日	所在地	調査原因	調査面積 (m ²)	調査結果	担当者
1	2月5日	伏山三丁目	店舗	-	遺構・遺物なし（工事立会）	林
2	4月8日	若松町西一丁目	共同住宅	37.6	遺構なし・遺物あり	角南
3	4月11日	喜志町一丁目	共同住宅	2.9	遺構・遺物あり（喜志東遺跡）	角南
4	4月25日	寿町二丁目	共同住宅	0.8	遺構・遺物なし	林
5	4月28日	錦織中一丁目	宅地造成	6.4	遺構・遺物あり（アミダ遺跡・発掘調査5）	角南
6	5月16日	大字甘南備	その他建物	-	遺構・遺物なし（工事立会）	林
7	5月30日	中野町東二丁目	その他建物	57.0	遺構・遺物あり（中野東遺跡）	渡邊、林
8	6月27日	昭和町一丁目	店舗	-	遺構・遺物なし（工事立会）	林
9	6月30日	山中田町二丁目	分譲住宅	10.0	遺構・遺物なし	林
10	7月21日	富美ヶ丘町	分譲住宅	-	遺構・遺物なし（工事立会）	林
11	8月2日	大字佐備	その他（進入路）	-	遺構・遺物なし（工事立会）	林
12	8月22日	宮町一丁目	個人住宅	-	遺構・遺物なし（工事立会）	林
13	9月5日	大字甘南備	その他建物	-	遺構・遺物なし（工事立会）	角南
14	9月7日	大字佐備	その他建物	-	遺構・遺物なし（工事立会）	角南
15	9月13日	平町一丁目	店舗	2.7	遺構・遺物なし	角南
16	10月20日	加太一丁目	宅地造成	1.6	遺構なし・遺物あり	林
17	10月21日	西板持町二丁目	その他建物	4.0	遺構・遺物なし	林
18	10月21日	喜志町一丁目	共同住宅	-	遺構・遺物なし（工事立会）	林
19	10月25日	昭和町一丁目	その他（看板）	-	遺構・遺物なし（工事立会）	林
20	11月11日	平町一丁目	宅地造成	5.0	遺構・遺物なし	林
21	12月9日	川向町	共同住宅	-	遺構・遺物なし（工事立会）	林
22	12月20日	甲田一丁目	店舗	-	遺構・遺物なし（工事立会）	林
23	12月20日	大字廿山	その他建物	-	遺構・遺物なし（工事立会）	林

1. 高志道跡
2. 高志西道跡
3. 白山古墳
4. 平1号墳
5. 平2号墳
6. 高志南道跡
7. 墓神古墳
8. 宮神社山古墳群
- 8-1. 宮神社高山1号墳
9. 高名井古墳
10. 富士山古墳
11. 鶴見山2号墳
12. 鶴見山1号墳
13. 沼田古墳
14. 犬井道跡
15. 中野北道跡
16. 中野道跡
17. 新宮南道跡 <歴史跡>
18. オガシ池古墳群 <歴史跡>
19. お島古墳群 <歴史跡>
20. 中野古墳推定地
21. 新宮道跡
22. 新宮古墳群
23. 新宮南道跡
24. 小人谷古墳
25. 小人谷道跡
26. 人谷古墳群
27. 墓ノ内道跡
28. 丹波道跡
29. 富士林寺跡付近道跡
30. 富士山1号墳
31. 富士山2号墳
32. 富士南道跡
33. 小字古墳群
- 33-4. 宮村古墳
- 33-5. 小金平古墳
- 33-6. 樺木谷古墳
34. だいじい猪火野墓
35. フクダ古墳
36. 中野東道跡

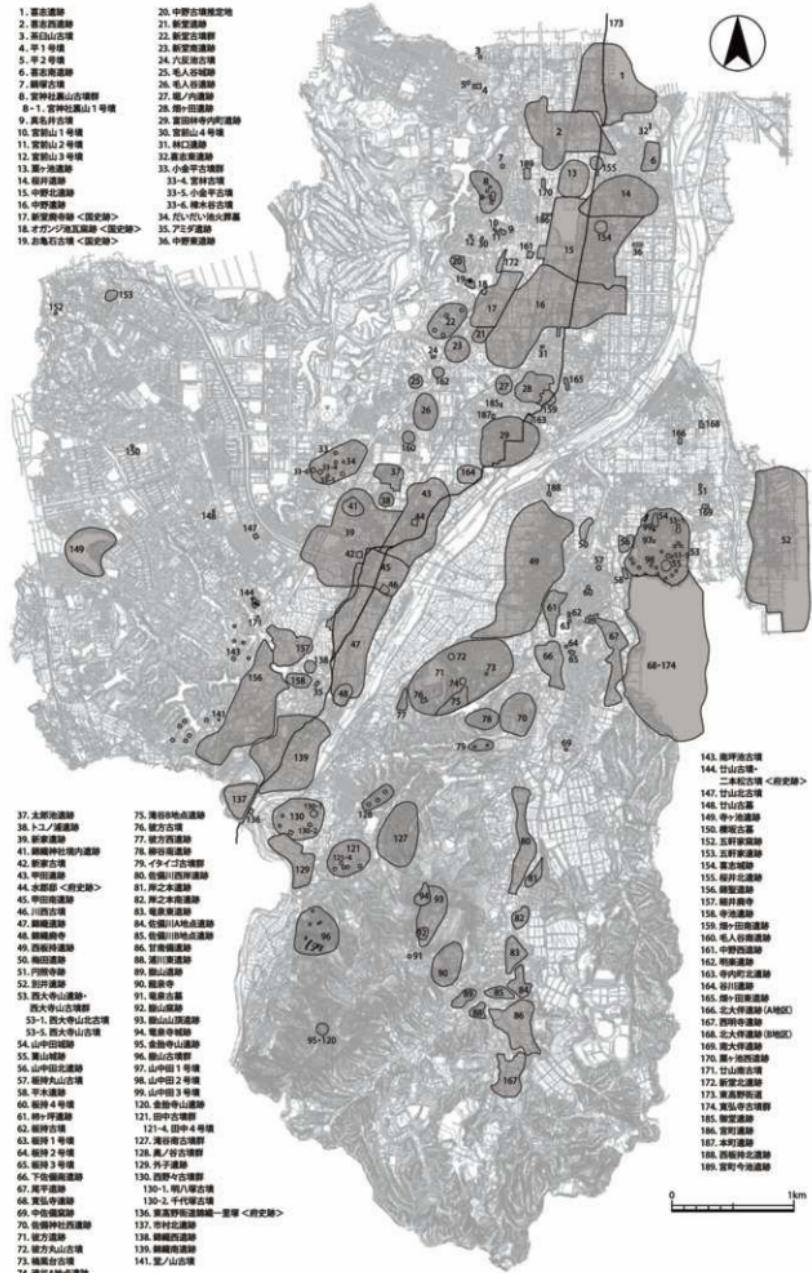


図1 市内遺跡分布図 ($S = 1/40,000$)

第2章 錦織遺跡（NK2015-1）の調査

第1節 調査の経緯と経過

錦織遺跡は、縄文時代から中世にかけての集落跡として周知されている。その範囲内である錦織東一丁目地内の住宅街の一画（図2）において、個人住宅の建て替え工事が行われることになり、平成27年11月12日付で文化財保護法第93条に基づく発掘届出書が提出された。計画では柱状改良が実施される予定であることから、同年12月14日に申請者の協力のもと、事前調査を実施した。その結果、円筒埴輪片を多量に含む宅地造成時の盛土層（後述する1層に該当）と、土師器片を含む黒褐色粘質土層（後述する8層に該当）を確認した。これを受け、当該地には遺構が存在する蓋然性が高く、本調査が必要との判断に至った。

本調査の実施範囲については、申請地が住宅密集地内であるという点を考慮し、安全面を最優先して、柱状改良杭が密に施工される部分を対象とした。調査は平成28年1月5日から同月9日にかけて実施し、実働日数は5日であった。

第2節 層序と確認した遺構

調査時の地表面となっている1層は、一帯が宅地造成された際に施工された盛土であり、最も厚い部分では厚さ1.5mにも及ぶ（図4）。この層には、後述する8層と類似した黒褐色粘質土がブロック状に入っている箇所があり、その中には多量の円筒埴輪片が含まれていた。



図2 調査位置図 ($S = 1/2,000$)

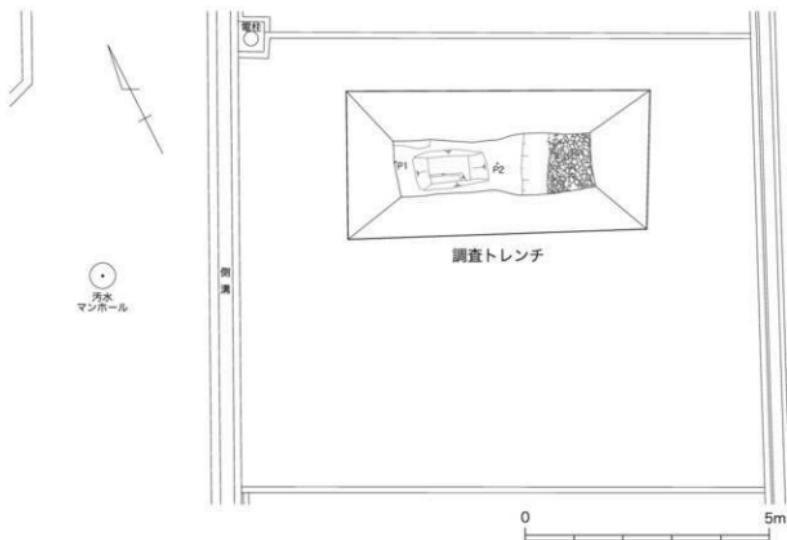


図3 トレンチ配置図 ($S = 1/100$)

2～5層は、宅地造成以前の旧耕作土・床土層である。6層も旧耕作土層の可能性があるが、後述する7層との境目は不明瞭であり、7層を利用して施された整地土と考えている。

灰黄褐色粘質土層の7層はトレンチの東側のみに認められ、掘削を進めていくと下層で多量の石群を検出した。トレンチ西側では、6層の直下が黒褐色粘質土層の8層になっており、石群は8層が東側に向かって下降し法面を形成している部分に認められることがわかった。これらの状況から、石群は埋没古墳の葺石の一部であり、8層は墳丘の盛土に相当すると想定をしたうえで調査を進めていった。なお、この7層は墳丘盛土とみられる8層と類似しているが、含まれる砂礫や円礫（葺石に用いられているものよりも小さく、大きさは5cm前後）の量が8層に比べると大幅に少ない。

石群については、転落石を含む一群を検出した状態で、表面に見えている1石分程度を外すと、下から原位置を保った葺石が現れた。葺石は東側のトレンチ外に続いていたが、遺構面が深いこともあり、トレンチの拡張による追求はできなかった。裾部に近い位置であれば、転落石が厚く堆積しているはずであるが、トレンチ内ではそのような状況は認められなかつたため、トレンチのすぐ外側に裾部があるとは考えにくい。

さて、葺石の状況を観察すると（図6）、ちょうどトレンチの中央で10cm前後の石が縦方向に2列に並んでおり（●部分）、作業単位を表す目地と考えられる。この2列の石を受け止めるようにして、約20cmの細長い石が据えられている（■部分）。さらにその下位に約12cmの方形の石を据え、それを起点に横方向に石が並んでおり（▲部分）、同様に目地と考えられる。葺石の角度は、今回検出した上半部と下半部で異なり、前者はやや急傾斜で後者は緩斜面となる。ただし、この傾斜変換点の位置は前述した横方向の目地とは対応せず、目地よりも1、2石ほど上位にある。

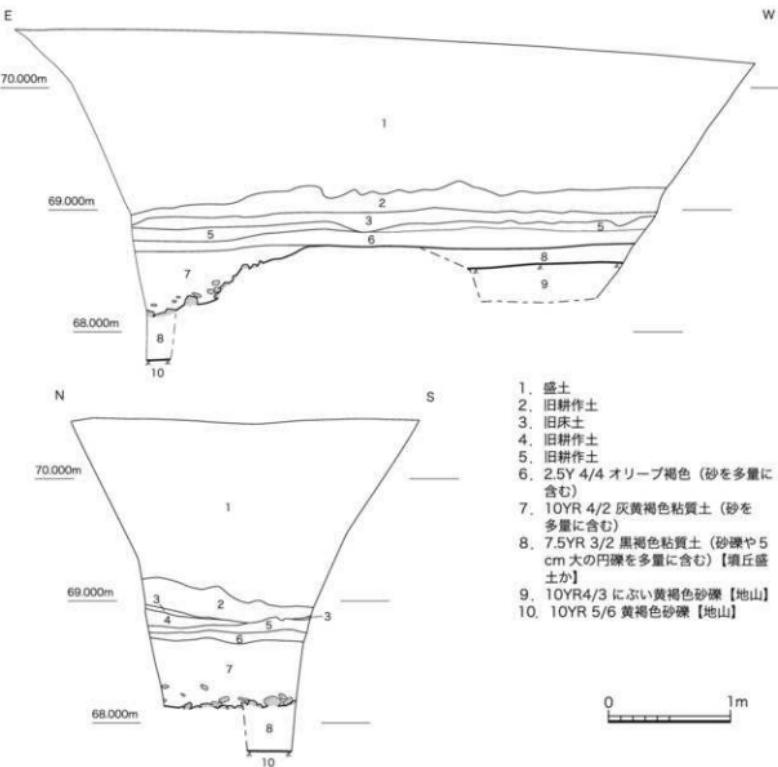


図4 トレンチ南壁（上段）および東壁（下段）断面図（S = 1/40）

8層の直下には、地山と考えられる層（9、10層）が認められるが、トレンチ内の東西で異なる状況であった。西端付近では、トレンチ埋め戻し前に実施した下層確認のための掘削により、8層の厚さが15cm前後であること、直下の地山とみられる層がにぶい黄褐色砂礫層（9層）であることを確認した。それに対して、東端付近では、8層の厚さが約40cmであり、直下の地山は黄褐色砂礫層（10層）であることを確認した。地山面の標高は、前者で約68.6m、後者で約67.8mであり、0.8mほどの高低差がある。現段階では、今回の調査地の東側を流れる石川に向かって、地山面が下降しているものと考えているが、堅く締まった東側の10層に比べると、西側の9層はやや締まりが悪く、盛土の一層である可能性は残っている。

墳丘盛土の8層については、葺石が認められなかった斜面上部や、6層と接する平坦面の表面が、マンガン粒を多く含む状態で堅く締まっており、一時期に表出していった面と考えられる。この平坦面には埴輪列などの遺構が存在する可能性も想定し、念入りに精査をおこなったが、遺構は確認できなかった。そのため、本来の墳丘テラスにあたる面であったのか、それとも後世の削平によって形成された面であったのかは分からぬ。

第3節 出土遺物

須恵器、土師器、黒色土器、瓦器、円筒埴輪、サヌカイト片が出土している。円筒埴輪はすべて小片で摩滅が著しいが、観察できた外面調整はタテハケのみであること、低く突出する突帯をもつ破片があること、円形のスカシをうかがわせる破片があることを明記しておく。ただし、すべて宅地造成時の盛土層（1層）からの出土であることは注意しておきたい。今回のトレンチを見る限りでは、宅地造成時に耕作面より下に掘削が及んでいた様子はなく、埴輪片を含む黒褐色粘質土のブロック土は、今回検出した遺構とは無関係の場所から運ばれたかもしれない。

土器類についても、残念ながらすべて細片であり、特筆すべきものはない。ただし、墳丘盛土（8層）内から、詳細な所属時期は不明ながらも須恵器、土師器の細片が出土していること、葺石を埋没させた7層から、高台の形状より12世紀前半頃のものと考えられる瓦器碗の細片が出土していることは、葺石の構築および埋没時期を考えるうえでの重要な検討材料となるであろう。

第4節まとめ

今回の調査では、小規模かつ制約の多いトレンチ調査ながらも、予想外の大きな成果を得ることができた。遺構の時期を特定できる遺物を欠いており、その性格についても、古墳の葺石とは断定できないことも事実である。それ以外の可能性としては、いわゆる豪族居館にみられるような壇状遺構の法面部分を護岸したものが想起される。しかし、今回の調査地が小字「ムロツカ」に位置し、5世紀

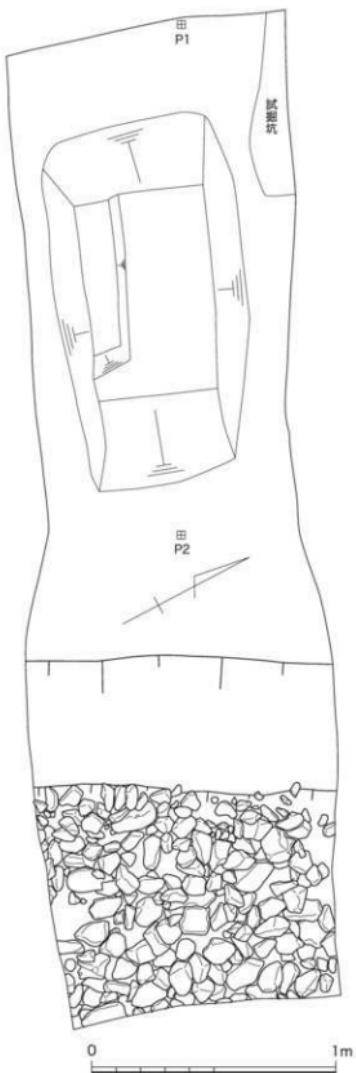


図5 トレンチ平面図 ($S = 1/20$)

後半の築造とされる円墳もしくは帆立貝形古墳の川西古墳（削平により消滅）に近く、同じ低位段丘上に立地していることから、これまで全く知られていなかった埋没古墳が存在すると考えるのが自然との結論に至った。今後の周辺の調査で明らかになることを期待したい。

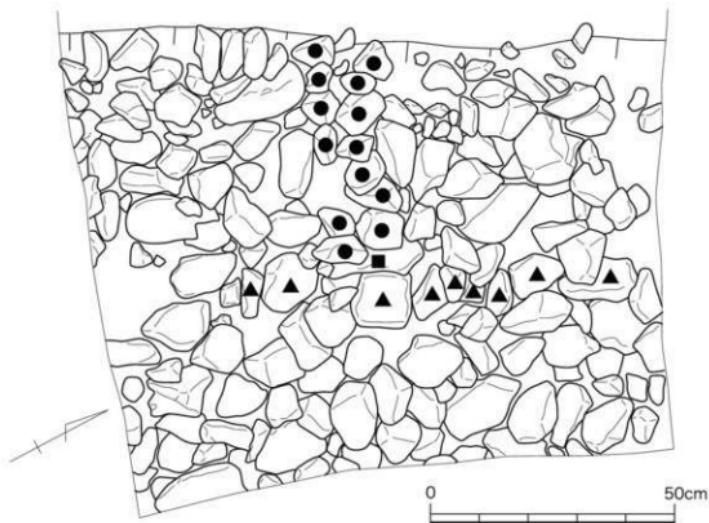


図6 莢石詳細図 ($S = 1/10$)



写真1 南半分の葺石（北東から）



写真2 北半分の葺石（南東から）

第3章 粟ヶ池遺跡（AG2016-1）の調査

第1節 調査の経緯と経過

粟ヶ池遺跡は、弥生時代から近世にかけての集落跡として周知されている（図7）。1978年に「粟ヶ池遺物散布地」として周知されたものの、長年にわたって詳細が不明な状況が続いていたが、近年になって個人住宅の新築工事等に伴う発掘調査を数件実施している。

桜井町二丁目で実施した今回の調査も、個人住宅の新築工事に伴うものである。平成28年7月29日に文化財保護法第93条に基づく発掘届出書が提出され、遺構面に影響すると考えられる浄化槽設置部分を調査対象とした。調査期間は同年8月30日から9月1日であり、実働日数は3日であった。

第2節 調査の成果

基本層序は、1層が盛土層、2～5層が旧耕作土・床土層（上層の上面は周囲の現耕作土面のレベルに相当）、8層が明黄褐色粘質土の地山である（図8）。地山面で遺構検出を行い、溝1条（SD1）とピット1基（SP2）を確認した。後者についてはピットと判断したが、大半が調査区外に広がっているため、土坑など異なる性格の遺構の可能性がある。

溝（SD1）の南西側の法面上で、土器師甕と須恵器坏身が出土している。須恵器坏身は田辺編年TK10型式（MT85号窯段階）～TK43型式に相当するものと考えられる。ピット（SP2）からは遺物は出土していない。

小規模調査のため、遺構はこの2基のみの確認にとどまったが、これまでの調査の中で最も西側にあたる部分で遺構を検出できたことは、集落の広がりを知るうえでも重要な成果といえるであろう。

参考文献

- 田辺昭三1981『須恵器大成』 角川書店
富田林市教育委員会1978『富田林市の埋蔵文化財一埋蔵文化財基本分布図一』

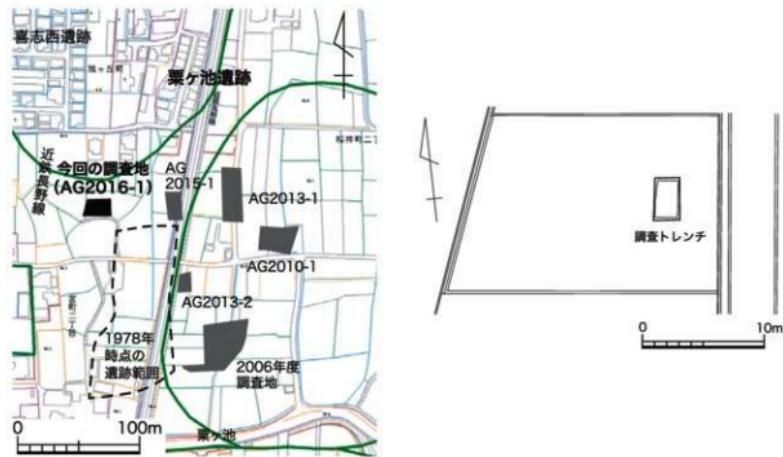


図7 調査位置図（左側 S = 1 / 4,000）およびトレンチ配置図（右側 S = 1 / 400）

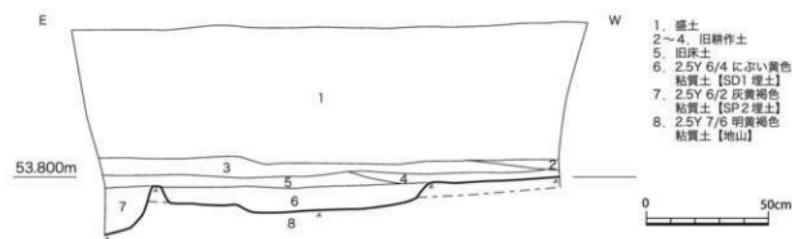
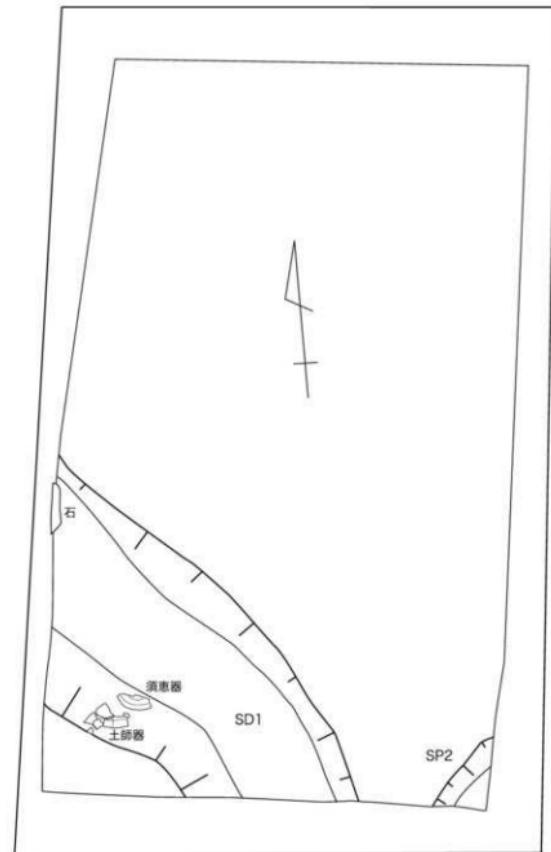


図8 トレンチ平面図および南壁断面図 (S = 1/20)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	へいせい28ねんど とんだばやししないいせきぐんはくつちょうさほうこくしょ
書名	平成28年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	富田林市文化財調査報告書
シリーズ番号	59
編著者名	角南辰馬、渡邊晴香
編集機関	富田林市教育委員会
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL0721-25-1000(代)
発行年月日	2017(平成29)年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしこおりいせき	とんだばやしにしきおりひがいせき	27214	47	34° 29' 19"	135° 35' 26"	20160105 ～ 20160109	18	個人住宅
錦織遺跡	富田林市 錦織東一丁目							
あわがいりいせき	とんだばやし さくらいちょうじにちようめ	27214	13	34° 31' 12"	135° 36' 28"	20160830 ～ 20160901	7.4	個人住宅
粟ヶ池遺跡	富田林市 桜井町二丁目							

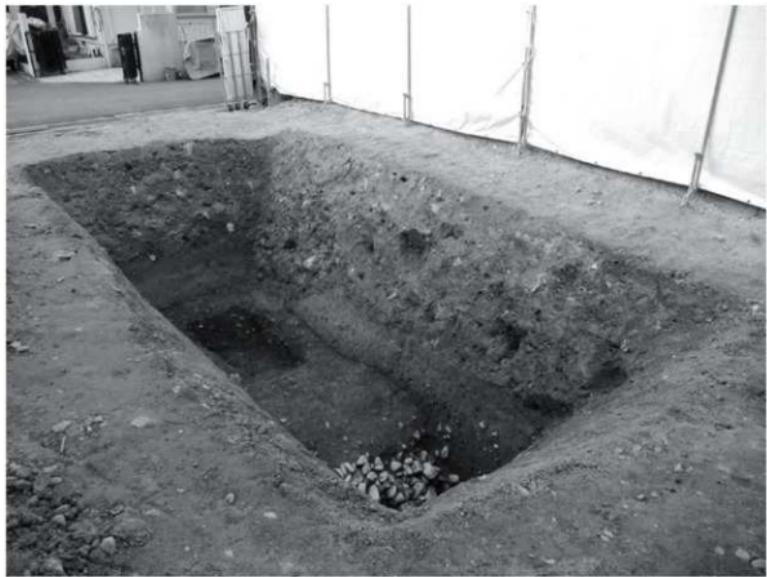
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
錦織遺跡	集落跡	古墳～中世	葺石	土師器・須恵器・瓦器・埴輪	埋没古墳の葺石とみられる遺構を確認した。
粟ヶ池遺跡	集落跡	古墳～中世	溝・ピット	土師器・須恵器	—

図 版

図版1 錦織遺跡（NK2015-1）



調査区近景（南東から）



調査区近景（南から）



葺石（東から）



葺石（北東から）



葺石（南から）



葺石（北西から）



調査区近景（北東から）



溝とピット（北から）



南壁土層断面（北東から）



溝の遺物出土状況（北東から）

平成28年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書

発行年月日 2017年3月31日

編集・発行 富田林市教育委員会

住 所 富田林市常盤町1番1号

印 刷 明朗社